

平成 27 年度第 2 回 富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
(概要)

日 時 平成 28 年 1 月 18 日 (月) 15:30~17:00

場 所 富山県民会館 304 号室

説明事項

- (1) 平成 26 年度 県中小企業振興施策の実施状況について (資料 1・資料 2)
- (2) 平成 27 年度 県中小企業振興施策等について (資料 3)
- (3) 県ものづくり産業未来戦略雇用創造プロジェクト平成 27 年度の取組み状況について (資料 4)
- (4) 国の中小企業振興施策等について

委員からの主な意見

- ・ 施策をどう事業者知らしめていくかが大切。周知を図っているがまだ足りないという声がある。当機関では 1 年に 1 回は各会員企業に赴き、施策の説明や悩み事の把握に努めている。
- ・ 生産性を高めるためには産業構造の近代化、中規模企業への統合化は避けて通れないだろう。また、現場の先端技術を磨くことも大切だが、基礎の現場力の維持・向上も必要。さらに、仕事の平準化も考える必要がある。年間フラットな形での行政からの発注、仕事のあり方も考えていただきたい。
- ・ ものづくり補助金について、労働生産性が低い、商業・サービス業分野での活用が進むように配慮いただきたい。
- ・ 生産現場の人手が特に不足している。ロボット化をもっと急がなければならない。大手は海外生産の効率を上げることに一生懸命で、国内の生産技術・生産性を上げる余裕がなく、国内の生産技術がシュリンクしていつているように思う。
- ・ 若い世代は働き方に悩んでいるように感じる。インターンシップ、就職活動の時期等で、学生自身が混乱している。大学側もどのような方向性でいこうか模索しているところ。

- ・ 文部科学省のCOC+事業で、県内7大学・高専、県内市町村、経済団体が連携して、5年計画で、地元就職率の向上、雇用創出、学生の課題解決力の向上等を目指している。学生や保護者に地元の中小企業の魅力を知らしめるため、県内経営者の講座、県内企業の魅力を伝える講座等を単位互換科目として新たに開講することも、計画の中にある。
- ・ 学生が在学中に就業体験をすることは大きな効果がある。長期型インターンシップ、文理融合型インターンシップ、海外インターンシップなども行い、地元への就職意欲を高めたい。
- ・ 非正規雇用が増えて、労働生産性が低下しているのではないかとされている。労働生産性を高めるためにも、正規雇用化が必要。
- ・ 優良な中小企業を応援したい。消費者への優良な情報提供が従業員の誇りとなり人材の育成にもつながっていくのではないかな。
- ・ 新しい施策をつくることも大事だが、継続性についても考えてほしい。
- ・ 県内企業のことを学生はもちろん、地元の方へも周知が必要。学生は就職情報をよく収集しており、転勤の有無や年収水準等の情報を厳しく見ている。
- ・ 多くある施策をどう県民・企業に周知していくか、工夫が必要。商業・サービス業、観光業向けの施策が少なめ。人材確保の際の企業の見せ方も工夫していかななくてはならない。インターンシップの前段階として、「14歳の挑戦」の高校生版、大学生版を、産業観光のなかでビジットコース、リクルートコースということで発展させて実施していきたい。
- ・ 伝統工芸全国大会で、若い人の積極的な取り組みを目にすることができた。起業方面でも女性の活躍が目立ってきている。一方、中小、特に小企業に向けて女性の仕事と子育ての両立についてどういう支援が受けられるのかが、まだ見えていないのが現実。若い女性の流出の理由についても、勉強し、また教えていただき、対処したい。